

東京大学教授 早野龍五さん

東京大学の早野龍五教授(65)は、物理学者であるとともに、音楽教育「ススキ・ワールド」で知られる才能教育研究会(長野県松本市)の会長だ。そして東日本大震災の直



福島不安 科学で対峙 ①

後から、東京電力福島第1原子力発電所事故による放射線の情報やインターネットで発信。以来、福島に関わり続けている。



被災地の人々に自信を データ分析 SNSで発信

が放射線計測器「電子線のガンマ線」を確保したという意味が、福島第一原子力発電所。C.S.137は天然には存在せず、バックグラウンドに書き込んだのが最初です。セシウムが検出されたというニュースを知り、まずいこ

とが起きているとわかりました。私は原子力の専門家ではありません。しかし科学者の習性で、データをみると分析したくなる。何が起きているのか知りたくて、東京電力や自治体が公表したデータを集めて各地の放射

す言説とは一線を画したため、「御用学者」との批判も受けた。東大本部から発信を止めようにも言われた。「黙れ」と言われ、黙った情報も広がると懸念。これだけ反応があるのは求められているからだと思います。当時、なじみのビテラクラブで、他のお客さんからビールを贈ってもらったことが印象に残っています。コースターの裏に「ツイット」のおかげでパニックを起さずに日常生活を送られましたと書かれていました。毎日ツイッターに掲載している写真の展示会を都内で引日まで開いていますが、コースターの写真

東京大学教授 早野龍五さん

岐阜県大垣市で生まれ、長野県松本市で育った。ススキ・ワールドで知られる才能教育研究会の前身、松本音楽院でバイオリンを学ぶ。1990年、12歳で大谷慶子東京音



福島不安 科学で対峙 ②

楽大学教授とともに同会の最初の米国演奏旅行のメンバーに選ばれ、ニューヨークの圓運本部でも演奏した。祖父、父ともに眼科医で、父が信州大学医学部で教えていたため松本市で育ちました。バイ



バイオリン 遂行力鍛える 高校進学 研究者めざす

悪く、自分をたまたまこぼさず、やり続ける、やり遂げるという研究者に欠かさない性格は、このとき身に付いたのではないかと思えます。いったん始めたなら、どんなことでも最後までやり遂げる率は高いのではないのでしょうか。

米国演奏旅行に参加したのは小学校を終えて中学に入る前の春休みの時期です。メンバーが10人だったため「テン・チルドレン」とよばれ、米国で大きな反響を呼びました。しかし子供なので、演奏会のことよりも、米国の生活の豊かさや移動中の

風景のほうが印象に残っています。将来、また米国にきたい、と思いついてきました。高校は地元の名門、長野県松本深志高校に進学。入学を区切り、バイオリンをやめ、研究者を目指した。師事していた鈴木鎮一先生に「やめなさい」と伝えました。鈴木先生は口をから「音楽家を賣っているのではなく、人を育てている」と言われていたため、反対はされないとわかっていました。なぜやめようと思ったかは、つきり覚えていませんが、もっと上手な人がいると思ったのだと思います。

東京大学教授 早野龍五さん

専攻は原子核物理。大学院に入った1974年、いきなり一人でカナダの実験施設で研究することになる。「面白いと思う研究を自由にやる」がモットーで、様々な研究テ



福島不安 科学で対峙 ③

「マに取り組んだ。大学院に入ると、実験のために米バークレーに行っていた担当の山崎敬光教授から呼ばれて米国へ。そのまま12月にはカナダのバンクーバーにできたばかりの中間子研究施設「TRIUMF」

MDFに連れて行かれ、そこで研究するまことに言い渡されました。山崎教授は私を置いて帰国。博士号を取る79年まで日本人は私一人です。外国人と一緒に仕事をし、人と意思疎通する力をこのとき鍛えられました。博士号を取った論文は、素粒子などの「スピン」という性質についてのものですが、別の目的でやった実験で偶然見つけました。大学院の博士課程3年だった私は、この実験のデータがとれるまで何をテーマに博士論文を書いたらよいかすら決まっ



カナダで研究 日本人は1人 誰もやらないテーマ面白い

た久保亮五教授が私の実験データを見てとても興奮したことで、これもないか」と手紙を送ってきました。こうした偶然からの発見を「セレンディピティ」と言いますが、科学では時々重要な役割を果たします。人のやっていないテーマを選ぶので、帰国してから、新しい研究に取り組むたびに最初の数年は失敗続き。30歳代半ばまでは山あり谷ありでした。90年に通常の物質と反対の性質を持つ「反物質」の研究を始めた。世界的な実験施設の欧州合同原子核研究機関(CERN)で進む国際共同研究のリーダーを務め、日本の物理学界で最も権威のある

を1番目に展示しました。ツイッターなどソーシャルメディアのすごさは、いろいろな人のつながりができることです。食べ物に含まれて体内に入る放射性物質が、この内部被曝の調査も、ツイッターを讀んだ医師の連絡から始まりました。得られたデータを分析することで、旧ソ連のチェルノブイリ原発事故に比べ、福島での内部被曝が心配されたりも少ないことがわかりました。今も事故の影響を心配しながら暮らしている人が大勢います。原発事故自体は大変なことですが、誤解も少なくありませう。福島の人たちが自信をもつて生きていけるよう、データを基にしながら「安全だ」と伝えることが大切だと思います。(ソニア・エディター 小玉祥司が担当します)

CERNの測定室で、仁科記念賞受賞内定を祝う(前列左)

仁科記念賞も受賞した。研究には「唯一のものであること(ユニークネス)」がとても大切だ。反物質の研究では、偶然、私たちが見つけた「反陽子ヘリウム」という特殊な原子を使っています。この原子を使う実験を手掛けているのは世界中私ただけです。1つのテーマの研究を長く続けたのは、ほかに誰もやっていない面白さがあったからです。